

平成22年度 酪農教育ファーム活動状況 (中間報告)

平成22年10月18日(月)

酪農教育ファーム推進委員会

社団法人 **中央酪農会議**



1 . 酪農教育ファーム認証申請及び認証研修会

(1) ファシリテーター・牧場の認証募集期間 :

6月21日～12月20日

認証募集については、指定団体に案内するとともに、業界誌 (DAIRY MAN、Dairy Japan)、業界紙 (全酪新報) 等を通じて広く酪農家・関係者に告知。

(2) ファシリテーターの認証研修会について、
3箇所で開催予定 (1泊2日)。

1月26日～27日 (東京)

2月1日～2日 (大阪)

2月15日～16日 (札幌)

昨年度まで補助事業により受講者の旅費を負担できていたが、今年度は仕組みがかわり、受講者の旅費負担が不可能。受講者には、研修助成金として5,000円を支払う。また、1日目の宿泊先については中央酪農会議で手配し、宿泊費を負担する。



2 . 酪農教育ファーム現地審査及び審査委員会

- (1) ファシリテーター及び牧場の認証申請に応じて、地域推進委員会・指定団体を中心に現地審査をおこなう。(9 月 ~ 1 2 月)
- (2) 審査委員会を 1 月上旬に開催予定。

平成22年度 酪農教育ファーム認証審査委員会 委員名簿

順不同、敬称略

	氏 名	所属・役職等
1	西田 敦子	全国退職女性校長会 副会長
2	林 克郎	千葉県酪農農業協同組合連合会 常務理事
3	松下 克己	松下牧場(静岡県)
4	溝本 朋子	千葉県農業共済組合連合会 南部家畜診療所 係長
5	前田 浩史	社団法人中央酪農会議 事務局長



3 . 酪農教育ファーム認証に係る広報活動等の強化 及び教育的効果に関する社会的認知の促進

- (1) 酪農教育ファーム認証制度の周知を図るため、全国段階で認証募集を酪農業界誌等でおこなうのと併せて、地域推進委員会が中心となって、地域単位での説明会の開催を予定している。(東北：11月～12月、関東：11月、北陸：11月)また、農協担当者等を通じて、すでに交流活動をおこなっている酪農家への呼びかけについても、各地で行う。
- (2) 教育関係者に向けては、酪農教育ファーム活動の教育的効果などについて、教育専門誌を通じた情報提供を実施。日本教育新聞には、酪農体験の様子と、それを観察した教育系大学の教授等からのコメント・評価を12月頃掲載予定。
その他の媒体については、現在検討中。



4 . 酪農家と教師の「出会いの場」作りのための 研究会や情報交換会の開催

(1) 昨年度に引き続き、地域推進委員会が主体となって、認証牧場・ファシリテーターと教育関係者との「出会いの場」（共同の研究会・研修会など）の開催が予定されている。（北海道：8月、東北：8月～2月・7回程度、関東：7月・11月、北陸：8月・10月、東海：冬季・2回程度、近畿：11月、中国：2月、四国：2月、九州：11月～1月・5回程度）

(2) 昨年度までの全国と地域のネットワークも活用し、日本で初めての酪農教育ファーム活動についての全国的な研究会「日本酪農教育ファーム研究会」が、8月6日に発足した。

詳細については、参考2を参照



5 . 「調べ学習教材」の開発と提供

最近、小学校での調べ学習にはインターネットが頻繁に利用される実態を踏まえて、小学生などの児童や教員が「酪農」「牧場」等について調べ学習を行う際に活用できるようなインターネット教材を開発する。

「調べ学習教材」開発専門委員

順不同、敬称略

氏名	所属・役職等
1 藤本 勇二	武庫川女子大学 講師
2 古庄 輝男	東京都荒川区立尾久小学校 副校長
3 亀山 桂子	あきる野市立前田小学校 副校長
4 中村 順子	北区立第三岩淵小学校 教諭
5 横山 弘美	練馬区立大泉南小学校 教諭
6 小澤 恵智子	新宿区立花園小学校 教諭
7 廣瀬 文彦	リバティヒル広瀬牧場(北海道)
8 大橋 隆	東海酪農業協同組合連合会 酪農振興室長



トップページのイメージ(仮)

6 . モデル牧場の指定と優れた実践事例の収集・研究

全国で先進的・特徴的な活動をおこなっている「モデル牧場」と連携して実施する優れた酪農教育ファーム活動の実践について事例研究をおこない、普及する。

特に、酪農教育ファーム活動が確実に子どもたちの学びにつながり、それによる子どもたちの酪農への親和性の高まりを検証するため、新たなモデル事業として、酪農体験学習に起因する牛乳飲用行動の変化などについても調査研究をおこなう。

【研究計画】

①酪農体験（牧場・出前）が児童（小学生）の牛乳飲用行動に及ぼす効果

/辻中俊樹氏/東急エージェンシー ★吉田牧場（埼玉県）

②酪農体験（牧場）が、児童（小学校5年生）の食生活に係る意識や行動に及ぼす効果（社会科学習と関連付けて）

/早稲田大学大学院教職研究科 田中博之教授 ★榎本牧場（埼玉県）

③酪農体験（牧場）が、児童（小5～中3の適応障害児）の「いのち観」や「心の成長」に及ぼす効果

/広島大学大学院教育学研究科 鈴木由美子准教授 ★石田牧場（神奈川県）

④酪農体験（牧場）が、家族内のコミュニケーションを通して子どもの食生活に係る意識や行動に及ぼす効果

/法政大学経営学部 木村純子教授 ★蔵王酪農センター（宮城県）



7 . 酪農教育ファーム活動に係る モデルカリキュラムの開発と提供

21年度の研究調査結果を踏まえ、酪農教育ファーム活動のなかで、教育的効果はどのような支援により発揮されるのか、どのような体験学習のメニューを選択的集中的に行うことが良いのかなどを具体的に整理したモデルカリキュラムを開発して、認証牧場・ファシリテーター及び教育関係者に提供する。

上記を目的に、酪農体験学習におけるモデルカリキュラム開発に係る調査研究をおこなう者を公募し、公募の結果、国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究部 角屋部長をリーダーとする研究グループ（窓口：広島大学大学院教育学研究科 木下准教授）に研究分析を委託した。（6月）

関東、中国、九州の牧場や学校を中心に、
調査を実施予定。



8 . 酪農教育ファーム活動の経済的自立に関する 経営モデルの開発と認証牧場への指導・普及

認証牧場等への指導に活用するため、酪農家が酪農教育ファーム活動を酪農経営の一環と位置付けて実施する際に参考となるような、活動の経済的自立に関する経営モデルを開発する。

上記を目的に、交流活動を実施する牧場の経営条件の分析等をおこなう者を公募し、公募の結果、千葉大学 大江教授をリーダーとする研究グループ（窓口：千葉大学大学院 園芸学研究科）に研究分析を委託した。（7月）

北海道の大規模酪農経営と、府県の小規模経営の2つの事例をとりあげて調査を実施予定。



9 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

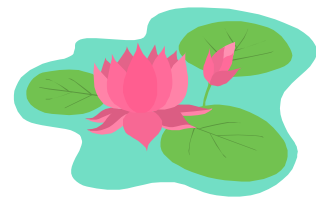
(1) 目的 :

酪農家が牧場で実施する酪農体験の事例を映像で確認することを通して、酪農家（ファシリテーター）が子どもたち（相手）に、伝えたいこと（「いのちの学び」「食の学び」）を伝わるように伝えるためのコミュニケーション手法を、参加者相互の学びあいのなかで見つけていく。また、酪農教育ファーム活動における安全衛生対策についても、再確認をおこなう。

(2) 9月8日（岡山・13名参加）、9月24日（仙台・14名参加）、10月22日（東京・20名参加予定）、11月2日（札幌・10名参加予定）、11月19日（愛知・35名参加予定）、の5箇所で開催。

(3) 時間：10時半～16時

昨年度まで補助事業により受講者の旅費を負担できていたが、今年度は仕組みがかわり、受講者の旅費負担が不可能。受講者には、研修助成金として5,000円を支払う。



9 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

【プログラム】

オリエンテーション

研修会のねらいやプログラムの内容、酪農教育ファーム活動の現状などを説明。

酪農体験における安全・衛生対策について

口蹄疫対策を中心に、酪農体験における安全や衛生対策について、再確認する。

講演/ほんとうに子どもたちに伝わっているのか～酪農教育ファームにおけるコミュニケーションのあり方～
酪農体験が子どもたちの心に残り、酪農や牛乳などに親しみを感じてもらえるような効果的なコミュニケーションについて解説する。

* 講師 *

- ・愛知教育大学 教授 野田敦敬氏 (9/24、10/22、11/19)
- ・福岡教育大学 教授 津川 裕氏 (9/8、11/2)

実践/子どもたちの酪農体験を映像で見る

酪農家(埼玉 吉田牧場)が行う酪農体験学習の場面(導入、体験、まとめ)を見る。

ディスカッション(グループワーク)

ビデオで確認した「子どもたちとのコミュニケーションを促す酪農家の支援」について、グループごとに意見交換をおこない、発表する。また、ファシリテーターが見つけたコミュニケーション手法について、講師から、教育関係者の立場で理論的に裏付けをしてもらう。

まとめ



9 . ファシリテーターに対するスキルアップ研修会

ファシリテーターの認証要件として、3年に1回の資質向上のための研修会の受講が義務付けられている。

新たな認証制度が施行された初年度（20年度）にファシリテーターとして認証を受け、20年度以降、一度も研修を受講していないファシリテーターについては、来年度（23年度）中に研修を受講しなければならない。

なお、来年度中に研修を受講しなければ、認証が失効してしまうファシリテーター数は、右のとおりである。

今年度、研修受講予定のファシリテーターを考慮した数値。

地域	ファシリテーター数	23年度中に研修を受講しなければ、認証が失効してしまうファシリテーター数(10/15日現在)
北海道	86	37
東北	67	35
関東	119	45
北陸	39	32
東海	75	20
近畿	25	1
中国	24	10
四国	12	1
九州	56	16
沖縄	4	2
合計	507	199

10. 「酪農体験学習マニュアル」の策定

酪農体験学習時に活用している「酪農体験学習ハンドブック（平成17年3月発行）」について、内容の充実を一層図るために改訂をおこない、「酪農体験学習マニュアル」として策定する。

「酪農体験学習マニュアル」作成専門委員

順不同、敬称略

氏名	所属・役職等
1 國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
2 長谷川 隆	千葉県農業共済組合連合会 家畜部保険課長
3 安原 栄蔵	地域交流牧場全国連絡会 交流部会長 【ABITANIAジャージーファーム(青森県)】
4 鎮守 喜代美	きいれ牧場(鹿児島県)
5 石田 陽一	有限会社 石田牧場(神奈川県)
6 中村 紀子	農林水産省生産局畜産部畜産振興課 草地整備推進室 草地整備計画調整班 企画調整係(オブザーバー)
7 釘宮 修	大分県酪農業協同組合 生産課長
8 小西 淳子	デーリイマン社 東京編集部



イメージ(仮)

1 1 . 全国推進委員会等の開催

平成22年度酪農教育ファーム推進委員名簿

順不同、敬称略

氏名	所属・役職等
1 羽豆 成二	帝京短期大学生生活科学科 前教授
2 角屋 重樹	文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部 部長
3 石井 雅幸	大妻女子大学家政学部児童課 准教授
4 國分 重隆	東京都新宿区立東戸山小学校 校長
5 大江 靖雄	千葉大学大学院園芸学研究科 教授
6 田山 修三	札幌市観光文化局 文化部文化財課 (北海道教育大学非常勤講師)
7 岩田 三代	日本経済新聞社編集局生活情報部 論説委員
8 木島 俊行	明治乳業株式会社 酪農部 部長
9 田村 学	文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
10 村上 隆彦	むらかみ牧場(北海道)
11 吉田 恭寛	吉田牧場 牧場のログハウスちちぶ路(埼玉県)
12 藤田 毅	地域交流牧場全国連絡会 会長 【フジタファーム(新潟県)】
13 板東 寛之	ホクレン農業協同組合連合会 参事・酪農畜産事業本部長
14 赤尾 學	東海酪農業協同組合連合会 代表理事専務
15 山口 昌春	九州生乳販売農業協同組合連合会 代表理事常務

(1) 平成22年度第1回推進委員会は10月18日に開催。第2回委員会を3月に開催予定。

(2) 全国推進委員会と地域推進委員会、地域推進委員会間の連携を強化するため、酪農教育ファーム全国・地域推進委員会合同会議(全国と8地域の推進委員会委員長及び事務局が参集)を5月20日に開催した。

(3) 地域での活動計画を策定し推進するため、全国9地域で地域推進委員会が開催されている。なお、都府県推進委員会の設置についても、各地で推進中である。

12. 教育関係者とファシリテーター等のネットワーク活動への支援

全国各地で情熱を持って酪農教育ファーム活動を実践しているファシリテーターと教育関係者などで、これまでの活動の成果と課題について研究を深め、各地でより質の高い酪農教育ファーム活動を展開する方策等について検討することを目的に、8月6日に新宿区の東戸山小学校において、「酪農教育ファーム全国実践研究委員会」を開催した。

当日は、北海道から鹿児島まで、全国から約70名のファシリテーターと教育関係者などが参加した。

開催プログラム	PROGRAM
1. 主催者挨拶	門谷 廣茂 社団法人中央酪農会議 専務理事
2. 来賓挨拶	本田 光広 農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課 課長補佐 倉見 昇一 文部科学省初等中等教育局教育課程科 学校教育官
3. 基調報告	「食といのちの学び」は、何故、酪農教育ファーム活動で可能となるだろうか？！ 社団法人中央酪農会議／事務局長 前田浩史氏
4. 分科会	「食といのちの学び」について、各学年の子どもたちの成長過程と結びつけて考える。



13. ホームページなどの情報環境の整備や「感動通信」等による各種情報の提供

(1) 酪農教育ファームホームページについて、関係者が必要かつ有用な情報を取得できるよう一層の充実を図り、またモバイルから牧場マップが閲覧できるように、情報環境を整備している。

(2) 教育関係者やファシリテーター等に対して、教育効果や教育的な視点、実際の活動の優れた事例、教育現場の動向等などの酪農教育ファーム活動に係る幅広い情報を、「感動通信」(年4回発行)等を通じて提供。

8月号(7月末発刊)、10月号(9月末発刊)を各5,000部発行。

教育関係者やファシリテーター、関係者等に送付。



1 4 . 認証牧場に対する現地調査・指導 及び安全衛生対策

- (1) 認証牧場における酪農体験学習のための安全な活動環境を整備するとともに、活動現場の多様な課題などの把握、個別課題への必要な支援を行うため、地域推進委員会を主体に現地調査・指導がおこなわれている。今年度は60牧場程度、現地調査・指導のために巡回予定。
- (2) 認証牧場・ファシリテーター等に対して各種安全衛生管理強化対策を実施しており、地域単位で腸管出血性大腸菌O157保菌検査、研修会等を実施。
- (3) 口蹄疫の発生を受けて、
「交流活動における感染症防疫マニュアル」
を策定。

資料 3を参照

